

# 大空 (生徒・保護者向け) 53号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年11月19日(金)

## くじけないで—様々な「分人」をきた人 柴田トヨさん—

### □本日の概要

- 1 柴田トヨさんは90歳で詩作を始め、「100歳の詩人」として紹介された。柴田さんの素朴な言葉は、被災地の人を始め、多くの人々の心を支えた。
- 2 90歳から詩を創り始めるような感性を持ちつづけた。そのためにも、若いうちに、豊かな教養を身につけ、様々な体験を積んで欲しい。
- 3辛いときもあるだろうが、そんなときは柴田さんのメッセージに触れて欲しい。
- 4 本日のNFC 感性 自他肯定力 想像力



### □芽がでなくても諦めない

今まで「分人」という視点で様々な人々を紹介してきました。分人は、自分の中の多面性を大切にする考え方であり、同時に他者の多様性を尊重する考え方でもあります。人生は多様な選択肢がありますが、分岐点で選ばなかった道が、後で自分の人生に影響してくることは多々あります。最近ではスポーツに関係のある人を紹介してきましたが、例えばイチロー選手のように、幼い頃からの夢を一貫して追い続け、野球選手として大成することも一つのあり方です。しかし、選手の道を諦めながらも、企業人として育成に関わるという人生もあります。世の中全体では、実は後者のような人の方が多いかもしれません。学問でも同様に、中高時代に興味を持っていた学問分野と、まった

く違う分野に取り組むようになった例は多々あります。

大切なのは、今、結果がでないからといって、自分をダメだと思ったり、あきらめたりしないことです。今は芽がでないことでも、ずっと将来、意外な花を咲かせるかもしれません。今日はそんな人を紹介します。

### □100歳の詩人 柴田トヨさん

冒頭の写真の人は柴田トヨさんといいます。1911年(明治44年)6月26日生まれで、残念ながら2013年に満101歳で亡くなりました。

柴田さんは詩人です。しかし、若い頃から詩人として活動してきた人ではありません。10代の頃は家が貧しく奉公に行かされ、十分な教育は受けていません。20代で結婚と離婚を経験、30代で再婚し、戦中、戦後を生き延びました。詩を書き始めたのは何と90才から。一人暮らしを心配する息子の勧めだったそうです。考えてみると、90歳のお母さんに詩作を勧めた息子さんも素晴らしい人だと思います。

柴田さんは、作った詩を産経新聞に投稿していたところ、詩人の新川和江氏の目にとまり高く評価されました。平易な素朴な言葉で、日常のさりげない気づきを綴った詩は、人々の心を打ちました。2010年に出版された詩集「くじけないで」は150万部を超えるベストセラーになりました。また、NHKのドキュメンタリー番組「99歳の詩人 心を救う言葉」という番組に取り上げられ、世の中に知られるようになりました。多くの苦勞を乗り越えてきた柴田さんの言葉は、特に苦しい状況にある人の心を捉えるのか、柴田さんの詩を心の支えに、東日本大震災を乗り越えようとする被災者の方々も多かったようで、その姿はNHK「不幸の津波に負けないで～100歳の詩人 柴田トヨ～」という番組で放映されました。

柴田さんの詩集「くじけないで」は、本当に自分のおばあちゃんが孫に向かって優しく励まして

いるような気持ちになります。(柴田さんの詩の朗読やインタビューは今でもYouTubeで見ることができます。ぜひ見てください。)

### □教養と感性豊かな大人でありたい

柴田さんは、文学に携わってきた人ではありません。でも、90歳から詩を作り始め、詩人としてデビューしました。以前、「ライフ・シフト」という本を紹介しましたが、これからの社会は人生100年の時代です。90歳でも詩作にチャレンジするような感性を持ち続けたいものです。

自分が高齢者になる時のことは、私のような年代になってもなかなかイメージできません。でも、私は柴田さんの生き方を知って、こんな素敵なお年寄りになりたいと思うようになりました。皆さんは今のことで頭がいっぱいかもしれませんが、教養を身につけ、様々な経験を積んで、豊かな感性を育てたいと思います。

辛いことはあるでしょう。そんな時は、100歳のおばあちゃんからの助言に耳を傾けてください。身近な人からの言葉は、かえって素直に聞けないことが時にあります。(例えば、親子の間柄など、関係が近すぎて難しいことがあります。)そういう時は、ちょっと距離のある人の言葉の方が素直に聞けることがあります。このある程度の距離のある関係を「ナナメの関係」といいますが、100歳生きた先輩からの言葉だと思えば、謙虚に聞くことができますか。

みんな、くじけないで。

くじけないで

柴田トヨ

ねえ 不幸だなんて  
溜息をつかないで

陽射しやそよ風は  
えこひいきしない

夢は  
平等に見られるのよ

私 辛いことが  
あったけれど  
生きていてよかった

あなたもくじけずに

貯金

私ね 人から  
やさしさを買ったら  
心に貯金をしておくの

さびしくなった時は  
それを引き出して  
元気になる

あなたも 今から  
積んでおきなさい  
年金より  
いいわよ

先生に

私を  
おばあちゃん と  
呼ばないで  
「今日は何曜日？」  
「9+9は幾つ？」  
そんな バカな質問も  
しないでほしい

「柴田さん  
西条八十の詩は  
好きですか？  
小泉内閣をどう思います？」  
こんな質問なら  
うれしいわ

秘密

私ね 死にたいって  
思ったことが  
何度もあったの  
でも 詩を作り始めて  
多くの人に励まされ  
今はもう  
泣きごとは言わない

九十八歳でも  
恋はするのよ  
夢だってみるの  
雲にだって乗りたいわ

皆様に  
(柴田さんの告別式で参列者に配られた詩)

お迎えが 何回か来たけれど  
口実を作って お断りしてきたの  
でも私も101歳 次は無理かもしれない  
私のお葬式 たくさんの人が  
来てくれるかしら  
その時は悲しまないで

トヨさん がんばったね

って 声をかけてください  
その言葉を励みに  
天国でも しっかりと暮らしてゆきます

皆様のご多幸を  
日差しとなり そよ風になって  
応援します  
今まで ありがとうございます  
碎夫婦をよろしく願います